

令和3年度第1回広島市いじめ防止対策推進審議会会議要旨

1 開催日時

令和4年3月22日（火）18時30分～20時30分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

(1) 審議会委員 5名

会長 宮里 智恵（広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

副会長 岩元 裕介（広島弁護士会 弁護士）

東岸 和子（広島県臨床心理士会 臨床心理士）

酒井 珠江（広島県社会福祉士会 社会福祉士）

岩井 優峰（元広島県警察本部生活安全部参事官）

(2) 事務局（広島市教育委員会）

いじめ対策推進担当課長、生徒指導課職員

(3) 傍聴人 0名

4 議題等（公開・非公開の別）

(1) 令和3年度のいじめ防止等の取組状況について(報告)（公開）

(2) 令和4年度の取組の方向性について（公開）

5 会議資料

(1) 次第

(2) 配席表

(3) 資料1 令和3年度 広島市におけるいじめ防止対策

① 支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック

② リーフレット「一人ひとりの子どもと繋がる教育相談」

③ 令和3年度生徒指導協議会講演資料

④ 「学校と他機関がスムーズに連携するためのリーフレット」

資料2 「“いじり”から考える 友だち関係」いじめをノックアウト NHK for School

6 会議の要旨【○委員 ●事務局】

資料1

1 令和3年度の成果（実績）と課題

1(1) ①ハンドブック

○ 実践例（P15・16）がとてもわかりやすい。活用の工夫をしてほしい。

教員を志望する大学生も、学級開きや初対面の保護者に何を話すか、不安を抱えている。

○ このハンドブックは初の試みか。

● ここまで支持的風土に焦点を当てたものは初めて。

1(2) 教育相談等

- いじめアンケートは、書かせる環境の影響が極めて大きい。従前の経験則で、家で書かせると、新たな情報が得られやすいことは明らか。「自宅で書かせる」「封筒で全員に提出させる」という方法で1回は実施するよう各校へ推奨してほしい。
- 低学年だと、学級で教員の支援を受けながら書いた方が良い場合もある。持ち帰らせるなら分かりやすい設問を。多様なアンケートの実施方法が望ましい。
毎年、定期的実施することで、「〇月にアンケートがあるから相談してみようかな」と子どもが相談することも期待できる。
- 少数だが、家庭が安心できる場所でない子もいる。配慮・工夫をお願いしたい。

1(3) ライフスキル・MLB（命を大切にする教育）

- MLBの取組を具体的に教えてほしい。
- SOSの出し方、レジリエンス（精神的な回復力）について、小5・6や中1・2向けの指導案を教委（生徒指導課）が作成し、担任とスクールカウンセラー（SC）がチームティーチング（TT）で工夫・応用しながら実施する。令和5年度から全校実施できるよう令和2年度から3年計画で取り組んでいる。
- SCの人柄を子どもが知る機会にもなり、カウンセリングのハードルが下がってよいのではないか。

1(4) 情報引継ぎ

- 市内にある県立高校のスクールソーシャルワーカー（SSW）から、出身校（市立中）との連携を相談されることがある。連携を促進してほしい。
- 対象となる子どもの割合はどの程度か。学校の事務負担が気になる。
- 学校にもよるが、数割。
- 情報の作成・管理は、いかに負担なく実施するか、実効的に活用できるよう、検索性を確保する必要がある。

1(5) 子ども主体の取組等

- 各校の成果・課題を共有する場としては何があるか。
- 教育相談・支援主任研修など。

2 令和4年度取組の方向性

2(1) ①ハンドブック

- 良いものを作ったのだから、しっかり活用してほしい。
- 特性を抱えた子にとって、担任が変わる度になじみのあるやり方を改めるのは大変。それを軽減するため、「学校として揃えるべきところは揃える」ことにも繋がる。

2(2) 教育相談等

- 教育相談の質を高める、悩みを少しでも多くすくい上げるには、「話しやすい人誰にでも相談できる」仕組みが重要だと思う。

2(3) ライフスキル・MLB（命を大切にする教育）

- MLBをSC・担任がTTで実施するに当たり、研修や準備時間を充実させてほしい。

- 3年計画で確実に実施できるよう取り組んでいる。授業1時間に対し1時間の打ち合わせ時間を確保している。

2(4) 情報引継ぎ

- 子どもが抱えている悩みは様々で、家庭の悩みを抱えている子も多い。子どもの環境に働きかけるSSWが貢献できる分野であり、SSWをしっかり活用してもらいたい。

資料2 (約10分間の動画視聴)

- いじめになるかならないか、環境・言い方などで紙一重であることが良く分かる良い事案。動画が伝えるものは大きい。普通の指導が入らない子でも、視聴することで何かを感じ取る子もいると思うので、しっかり活用してほしい。
- なじみのある芸能人が子どもに与える影響は大きい。
メディアの責任、保護者や周囲の大人の責任を感じる。テレビ番組での「いじり」を見て笑う、一方で「いじり」は危ない・いけないと指導する。子どもから見て矛盾してないか。大人として必要な感性を持っているか自問することがある。